

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 22-018

PDCA	事務事業名	福祉ふれあいプール管理運営事業	部課等名	健康子ども部スポーツ課 施設担当	担当	伊藤	
					内線等	27-6663	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち 節： 第2節 生涯学習の推進 基本施策： 4. 生涯スポーツ・レクリエーション 単位施策： (2) スポーツ施設の効率的利用と整備・充実 個別施策： ③スポーツ施設の整備					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	安全・快適な施設となるよう維持管理し、利用者が安全に水泳や水に親しむ場所を提供する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・25mプール槽床の改修 ・指定管理者制度による施設管理の継続 ・自主事業の企画運営 ・利用者アンケートの実施 ・ガスでの運営を想定した施設整備					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	30年度	元年度	2年度	単位	
		①年間開館日	308	283	219	日	
		事業費	100,704	102,459	100,482	千円	
		人件費	1,285	1,723	1,666	千円	
		総事業費	101,989	104,182	102,148	千円	
		活動単位当たりのコスト	30年度	元年度	2年度	単位	
	①福祉ふれあいプール利用者1人あたりの管理運営経費	764	800	1,849	円		
	②福祉ふれあいプール敷地面積1㎡あたりの管理及び整備コスト	7,591	7,754	7,603	円		
	成 果	成果指標	30年度	元年度	2年度	単位	
		①施設利用者数	実績値	133,560	130,158	55,246	人
			目標値	141,000	150,000	140,400	
		実績値					
		目標値					
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	中程度	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	D					
		施設利用者数の目標値を達成できなかった。令和2年度は緊急事態宣言等のため、4月から6月に閉館したため利用者数が減少した。水泳教室、アクアビクス教室、シェイプアップ教室等新しく利用者を増やす自主事業の開催や、プール槽の改修工事を実施し、サービスの充実と安全・快適に施設を利用できる環境を整備した。固定の利用者を確保しつつも、新規の利用者を獲得するため、設備等を整備していく。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	新規の利用者の獲得、市民ニーズの反映や施設の有効活用を図るため、指定管理者との担当委会議を行うと共に、各種教室、クリスマス企画、幼児プール体験等のイベントを更に充実させ、利用者の増加に努める。また、施設の老朽化による修繕を計画的に実施する。					
	令和3年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		①施設利用者数			140,400	人	